

2023年3月12日（日）「裁きと赦しの関係」

ハイデルベルク信仰問答より

問10 神は、このような不従順と離反に対して、人間をみすごしになさるのですか。

答え 決して、そうではありません。なぜなら、神の怒りは私たちの生まれながらの罪深さと現実的な罪に対して、天から啓示されています。神は、「律法の書に書かれているすべてのことを守り、行なわない者は呪われる」と語られた通り、時間的にも、永遠にも、神の正しい裁きによって彼らを罰するのであります。

〔聖書協会共同訳〕

不義によって真理を妨げる人間のあらゆる不敬虔と不義に対して、神は天から怒りを現されます。

（ローマ 1:18）

律法の行いによる人々は皆、呪いの下にあります。「律法の書に書いてあるすべてのことを守らず、これを行わない者は皆、呪われる」と書いてあるからです。（ガラテヤ 3:10）

ハイデルベルク信仰問答からの説教を問1から続けてまいりまして、私の中では今日で一旦の区切りとなります。と申しますのは、コロナ危機に突入したことをきっかけに、少々中途半端ではありましたが、問11から祈禱会でショートメッセージを作り始めたからです。問10までのポツカリと穴の開いた部分も網羅したいという思いもあってここまで続けてきましたが、その間にだんだんと「教会全体で教理を学ぶのは大切なことではないか」という思いが募ってまいりました。そこで、今後もヨハネの黙示録の講解と並行して続けていく予定であります。ただし、既存のショートメッセージをそのまま使うということではなく、子どもにも教理が分かるように更に咀嚼した内容にしていこうと考えています。時にはスキットや体験学習のようなものも導入するかもしれません。子どもに分かることは大人にも分かるというのが、私の信じているところでありませぬ。

さて、今日の間答は問9の内容を受けているはずなのですが、私の中では論理的つながりを見出すのに少々頭をひねらなくてはなりません。まずは問9を振り返ってみましょう。

問9 神が、律法において、人間がなしえないことを要求するのは、不正ではないのですか。

答え いいえ、そうではありません。なぜなら、神は人間がそれを行ないうるように、お造りになったのであります。けれども、人は悪魔の煽動によって、故意に不従順となり、自分自身とすべての子孫からこれらの賜物をだましとってしまったのであります。

前回は、アダムとエバが禁断の木の実を食べた後、罪を指摘されて直ちに始めたのは、その責任を他人に押し付けることであったという内容でした。アダムは神に対して逆ギレし（あなたが連れてきた女のせいで）、エバは蛇のせいになりました（蛇が惑わした）。この時点で二人の心に悔い改めは見出されません。しかし、創世記3章を読み進めると、神様はこの悪しき二人に「皮の衣」を着せてくださっているのです。

神である主は、人とその妻に皮の衣を作って着せられた。（創世3:21）

この「皮の衣」は、彼らの恥を覆い、彼らの罪を隠すものでした。彼ら自身でこしらえたものではなく、神様の側で用意してくださった神の基準に基づく罪を覆う手段、罪の赦しのしるしであったと言えます。ここには書かれていませんが、この憐れみを受けるにあたって、二人の心には何らかの変化があったはずだと私は理解しています。自分たちがやってしまったことを悔い、主に赦しを請うたと思われるのです。

このように「悔い改め」を挟み込んでみると、問9と問10がつながりやすくなります。神様はアダムとエバを赦し、罪深い彼らを憐れんでくださったのです。では、この一方的な赦しとは「神は、このような不従順と離反に対して、人間をみすごしになさる」ことを意味するのか。そうではないという答えが与えられます。

決して、そうではありません。なぜなら、神の怒りは私たちの生まれながらの罪深さと現実的な罪に対して、天から啓示されています。神は、「律法の書に書かれているすべてのことを守り、行なわない者は呪われる」と語られた通り、時間的にも、永遠にも、神の正しい裁きによって彼らを罰するのであります。

二人が犯した罪に対する赦しは与えられました。しかし、罪への報いは確実に彼らとその子孫の上に降りかかるということも宣告されたのです。

神は女に向かって言われた。「私はあなたの身ごもりの苦しみを大いに増す。あなたは苦しんで子を産むことになる。あなたは夫を求め、夫はあなたを治める。」神は人に言われた。「あなたは妻の声に聞き従い取って食べてはいけないと命じておいた木から食べた。あなたのゆえに、土は呪われてしまった。あなたは生涯にわたり、苦しんで食べ物を得ることになる。（創世3:16-17）

女性には「産みの痛み」が、男性には「労働の痛み」がもたらされました。しかもそれは、彼らの代で終わるものではなく、未来永劫子孫に及ぶものとなってしまった。ここに、裁きと赦しの両面が神様の内にはあることが分かります。赦すことと罪を見過ごすこととは違うということが明確化されている。神の義は貫徹されなくてはならないのです。

子育てにおける「許し」と「甘やかし」の線引きの難しさは、ほとんどの親が経験（葛藤）してこられたのではないのでしょうか。親子で話し合っただけで決めたことを守らなければこのようなペナルティがある、ということをお約束していたとします。しかし、決まり事が破られたとき、甘い親は「やっぱり子どもが可哀想だから」と心が萎え、ペナルティを実行できないことがあります。

す。それは、一時的には子どもを喜ばせるかもしれませんが、「約束を破っても罰は下らない」という意識を持たせてしまい、人格形成においてかえって悪影響を及ぼしていくかもしれません。人間はどうしても不徹底になりがちなのです。そして、本来貫徹されなくてはならない義がなし崩しにされているケースが多い。実際、罰を与えるのは親としても辛いところあります。

教会においても、罪が隠されたままの状態であったり、罪が明らかでありながら戒規が執行されないでいると、罪を犯した人にとっても群にとっても、汚れがまとわりついたままの状態が進んでいくことになります。

しかし、神様の場合はそうではなく、どんな時にも有言実行であり、そこに妥協はありません。「答え」の部分の内容を解説しておきましょう。

① 神の怒りは私たちの生まれながらの罪深さと現実的な罪に対して、天から啓示されています

もし神が罪に対して怒らないなら、神はカオスをよしとする方だということになるでしょう。神は義でなく、神にも罪があるということになります。「生まれながらの罪」とは原罪のこと、「現実的な罪」とは生きている間に犯す数多の罪科を指します。「天から啓示」とは、聖書のことばを通して指摘されているということです。

② 神は、「律法の書に書かれているすべてのことを守り、行なわない者は呪われる」と語られた通り

これは申命記で言われている祝福と呪いの約束が前提になっていると思われれます。申命記 28:1-14 では、イスラエルの民が神のことばに聞き従ったときにもたらされる祝福の数々が述べられています。しかし 15 節以下では、聞き従わなかった場合の呪いの約束が更に多くの紙面を割いて書かれています。イスラエルの歴史を見ると、これらの約束はことごとく成就してきたことが分かる。

③ 時間的にも、永遠にも、神の正しい裁きによって彼らを罰する

「時間的にも、永遠にも」というところが少々理解しにくいですが、これはおそらく地上における裁きと死後の審きを意味するのでしょう。アダムとエバは地上にあって裁きを受け、エデンの園から追放されました。しかし、彼らは悔い改めたと思われれますので、その罪は赦され、永遠の領域では審きに遭うことのない者とされたのでしょう。罪を悔い改めないなら、その罪は永遠という領域において審かれるものとなる。

最後に、私たちは福音のことばに耳を傾けなくてはなりません。私たちは自分が神に対してどの程度の罪を負っているかということを知ることはできません。自分で数えられるものはあ

まりにも限定されているのです。誰が心の中で犯した罪を数えることができるでしょうか。誰かを傷つけていたことなどつゆ知らず一生を過ごすこともあるかもしれません。私自身、心に示される罪を書き留め、一つひとつ解決に努めながら生きている者であります。それでも不十分であることを自分が一番よく知っているのです。認識している部分は氷山の一角に過ぎません。見えないところまで見ておられる神の裁きがもろに自分に下ったとしたら、私はひとまりもないでしょう。神の栄光に打たれるほかない存在なのです。しかし、私たちに向けられた神の怒りを一身に引き受けてくださった方がおられます。主イエスの十字架は、私たちの罪に対する神の呪い、神の裁き、神の怒りが極限まで現れたところでした。この方の身代わりの死によって私たちは赦された。この存在が丸ごと神に受け入れられたのです。アダムとエバに着せられた「皮の衣」とは、主イエスを予表していたと言われます。私たちはキリストの「義の衣」を着て、神との永遠の交わりに入り、二度と審かれることのない者とされているのです。

【祈り】

アダムとエバに赦しを与え給うた神よ。彼らの罪もまた、第二のアダムなる主イエスによって赦しの下に置かれました。主の十字架を仰ぎ見るとき、神の義が決して曲げられないものであることを知ります。神の聖は汚されてはならないのです。多くの人間によって曲げられてきたものが、主イエスにおいて真っ直ぐにされました。私たちもまた、十字架の影に身を寄せることによって、あなたに受け入れられる存在となりました。心から感謝いたします。願わくは、私たちの生き方があなたの聖と義を世に現すものとなりますように。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、
ご自身の義を曲げることなく、終わりまで貫徹し給う、父なる神の愛、
人の罪を一身に担い、十字架にていのちを捨て給うた、主イエス・キリストの恵み、
アダムとエバに着せられた義の衣そのものとなって、神の目に罪を覆い隠し給う、聖霊の親しき交わりが、
あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。